

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に姫路ケアセンターそよ風の目標と独自の理念を掲げており、朝礼時に唱和している。	スタッフからの意見を集めた姫路ケアセンターそよ風の独自の理念、「やさしい笑顔は介護の原点」はグループホームの理念として最適であり、スタッフも意識して実践していることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊り等の地域行事への参加や施設行事への招待など、交流を行っている。	グループホーム周辺の環境を考慮し、地域の方との交流の機会を設けるための努力を惜しまない姿勢がある。交流の機会を持つため、ちょっとした買い物や散歩等に近隣を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護支援ボランティア養成の受け入れや、トライやるウィークの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の割合で会議を開催しており、その際には包括支援センターからも出席して頂き、サービス向上に繋がる様話し合いを行っている。	家族の参加は特に案内を行っていないが、町内会会長、婦人会会長、包括支援センターの職員等、知識を有した方の参加により、施設での取り組みについて積極的に意見を頂いている。また、ご家族へは議事録を発送している。	可能であれば、家族の参加を促し、意見を頂ける機会を設けて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や勉強会へ参加したり、必要に応じて市役所、消防署、保健所等に問い合わせなどを行っている。	グループホーム連絡会への参加や包括支援センターとの連携により、情報収集を行い積極的な業務運営を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏や不安が見られる際には付き添い、身体拘束の無い介護を行っている。立地条件による安全確保の為、家族からの了承を得て玄関の施錠は行っている。	周辺の環境(交通量が多い等)を考慮し、入り口の施錠を行っている。家族からも「わざわざ開けていただく事に気を使う」との意見もいただいているが、以前、出られた方がおられたため、検討中である。身体的な拘束は意識して行っていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、精神的虐待にも細心の注意を払い、取り組んでいる。	虐待については、全くないと認識しており、どんな些細なことでも見過ごされないように徹底して取り組んでいる。また、勉強会や研修等にも積極的に参加し、虐待防止を心掛けている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が研修へ参加する機会を持ち、それを共有できる様になっている。また、必要とされる利用者がいないか話し合いの場を持っている。	研修等への参加を呼びかけ、権利擁護・成年後見制度について全職員が理解し活用できるよう努めている。また、全体会議等での報告により、情報の共有化を図っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明と理解を得ており、入居後にも必要に応じてその機会を設けている。	センター長、管理者により、十分な説明を行い、理解して頂いた上での契約となっている。また、どんな質問にもきめ細かな対応が行えるよう心掛けている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からは日常的に意見や要望を受けるようにしており、また定期的に家族会を開催している。	行事の時に行っている家族会には多くの家族が参加して下さり、意見や要望を出してもらっている。出された意見や要望については真摯に受け止め検討するよう心掛けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時意見や提案を話し合い、定期的に全体会議やユニット会議を開催し、発言出来る機会も持っている。	会議だけではなく、業務中に気づいたことについても、積極的に意見交換を行っており、何かあれば即座の対応を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴や特技を把握し、それぞれの得意分野を活かせる様、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に外部研修の機会を設けており、それ以外にも全体会議を利用し、内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会や勉強会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前はもちろん、入所以降も不安や要望を傾聴し、安心して生活出来る環境やサービス提供出来るよう、努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際にはキーパーソンとなる家族を中心に話す機会を持ち、不安や要望を傾聴し信頼関係が築けるよう、努力している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にケアマネを交え、本人や家族と話し合い、要望や必要なサービスが提供出来るよう、努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で同じ時間を助け合って過ごしているという気持ちを持ち、声掛けや行動で一方的な介護にならないよう、努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊による家族交流を推進し、実施している。また、受診が必要な場合は付添いを家族にして頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まず家族の承諾を得るなどプライバシーに配慮しながら、知人や友人の面会を受け入れている。	希望があれば、馴染みの美容院等を利用して頂けるよう支援している。また、入所時に家族の意向や希望を聞き可能な限り、対応を行っている。内容によっては、家族の判断に任せている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置なども考慮しトラブル回避に努めたり、利用者同士の関わりだけでは不十分な場合、職員が間に入り支援に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族からの要望があれば応じていけるよう努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話や傾聴、観察等から本人の思いや意向の把握に努めている。	入居者それぞれの思いは、出来る限り本人の希望、意向という視点に立った対応が行えるよう心掛けているが、個別対応は家族にお願いしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話や聴き取りから把握するよう努め、職員間での情報の共有を行っている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活サイクルなど以外にも、レクリエーションや家事などを通じて、現状を把握するよう努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、会議で職員から提案された事柄を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月、6ヶ月に一回、プランの内容により職員間で意見交換し、見直しを行っている。又、状況に応じ、管理者とケアマネジャーがその都度、話し合える場を設けている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	報告や連絡に関するノートを職員で共有しており、合わせて口頭での申し送りも行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能を活用し、出来る限りニーズに応じた支援を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	トライやるウィークの受け入れや、小学校音楽会への招待など、地域との交流を行っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を行っている。また利用者の体調不良時は主治医に連絡し受診、体調管理に努めている。	2週間に1回の内科医訪問診療と1週間に1回の歯科医師の訪問診療があり、急な対応は職員が行っている。また、内科以外の特別な診療に関してはご家族にご協力を頂いている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体症状の変化や急変に対応し、医療連携を実施している。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院関係者に情報提供を行っている。入院中は基本的にはご家族様におまかせし、お見舞い時等に様子を伺い、入院中の経過についての情報を得るようにしている。	1か月を目処に管理者が病院関係者や家族へ調整を行っている。また、治療内容を重視し、出来る限り戻ってきて頂けるよう配慮している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前よりご家族への説明を行い、必要に応じて話し合いの場を設けている。医療行為が特に必要ない場合や家族の意向により経口摂取可能な限り支援している。	基本的には終末期の看取りを行っていないが、終末の説明は往診の医師が行い、家人へ理解して頂けるよう努めている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応したマニュアルを作成したり、訓練を行っている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。地域や家族にも協力を依頼したり、非常食や水の備蓄している。スプリンクラーや火災報知機も設置済み。	非常食と水は事務所にまとめて置き、災害時に備えている。また、消防署長であられる地域の町内会会長のご協力を頂ける手配も整っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、その方に合わせた声掛けを行っている。	自尊心を配慮した言葉かけを意識し、対応している。また、親しい声掛けの良し悪しについての判断が正しく行えるよう心掛けている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己表現しやすいよう、場面に応じた声掛けを行っている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ対応できる体制を整えるよう、努めている。場合によっては居室内での食事などにも対応している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族とも相談し訪問美容を利用したり、家族付添いにてパーマや毛染めにも行っておられる。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の声掛けにより盛り付けや食器拭き等、一緒に行っている。下膳は利用者に協力してもらっている。	個別の特別メニューを取り入れ、飲み物の個別対応を行っている。また、食事の盛り付け、下膳等や一緒に行うおやつ作り等も楽しんでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を活用している。食べやすい形状にしたり、嗜好に合わせて提供している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて、毎食後に行っている。義歯は毎日の夕食後に預り、専用洗浄剤を使用しての洗浄を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用により排泄パターンをつかみ、声掛け誘導を行っている。	殆どの方への個別対応として、状況に応じた声掛けと誘導が行えている。また、自立されている方へのパット確認等も支援している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や適度な運動を心がけ便秘予防に努めているが、下剤の使用等も主治医の指示にて取り入れている。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯を決めてしまわず、体調や習慣を考慮して個別対応している。また、利用者により同性職員が対応するよう、配慮している。	夜間帯以外での入浴はいつでも可能であり、体調を考慮して個別対応を行っている。日中、3時から6時の間の入浴を基本としているが、希望があれば朝の入浴も行っている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を強制せず、居室やリビングなど思い思いの場所で過ごせるよう努めている。室温調節などにも気を付け、安眠できるようにしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については処方箋を確認し、わからなければ主治医や薬剤師に相談している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や洗濯畳み、料理の盛付け等各々の力を活かした、役割の働きかけを行っている。		
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら、季節を感じて頂けるようなプランでの外出や外食を行っている。	家族と出かけられることに制限は設けておらず、旅行等に出かけられる方も居られる。近隣への外出を出来る限り支援している。	今以上の外出支援をしたいと思っている職員が居られ、十分な支援を心掛けていたと感じた。今後のプランを期待したい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力の有無に係わらず、希望に応じて所持されているが、紛失時の責任所在については家族に了承を得ている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を置いておられる方もおられたり、手紙をよく書かれる方には便箋や封筒などをプレゼントしたりしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めは利用者によって率先して行われている。季節ごとに花を植えて楽しんで頂いている。	庭がない分、ベランダで園芸を楽しんで頂き、フロアから季節の花々を楽しんで頂く為の工夫をしている。また、季節を感じていただけるよう、室内の飾りつけ等にも工夫が見られる。温度・湿度に関しても十分な対応が行われている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には個別の定まった席とは別に、窓際にソファを配置し、くつろげる空間もある。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具等を持ち込みして頂き、その方らしい居室になるようにして頂いている。	落ち着いて過ごしていただける環境を提供するため、個別対応を心掛け、その人らしい空間の演出を支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床もクッション材使用され、手すり設置等安全に生活したり、トイレも分かりやすく表示し、安全で安心して生活出来るよう、工夫されている。		